

## 令和5年第6回(12月)市議会本会議委員会報告について

教育総務課

質問者・質問の要旨	答弁の要旨と今後の課題、具体的対応策
<p><b>【中村眞一議員】</b></p> <p>●おおとりプラザプールの活用について</p> <p>生徒が使用しない曜日、時間帯を分け、プールの運営を民間業者に委託、指定管理者制度の導入を検討すべき。</p> <p>また、市内のスポーツ施設が経営上の問題で機能が止まり、市内の子どもたちが長野市や上田市の施設に通い、有料で練習している実態は承知しているか。</p>	<p><b>【教育部長】</b></p> <p>埴生中学校の屋内プールにつきましては、平成20年度から灯油高騰により冬季間の一般開放を中止し、平成26年10月からは、行政改革大綱特別対策プランに基づき、一般開放を終了している。</p> <p>現在、当該学校の生徒が使用する体育施設と位置付け、4月中旬より10月下旬までの間において、体育の授業で利用するほかに、放課後は、坂城中学校・屋代付属中学校を含めた6中学校が合同部活動場としての利用しており、本年4月から部活動の地域移行として千曲坂城クラブでも休日平日ともに利用している状況である。</p> <p>生徒が使用しない曜日や時間帯を分け、運営を民間委託・指定管理できないかのご提案ですが、9月議会で議員がご質問されたスポーツ庁からの「学校体育施設の有効活用に関する手引き」でも、「学校体育施設について官民連携等の工夫を図り如何に活用してくかが重要」とありますので、民間委託または指定管理ができる団体・業者があるかも含め、全国の先進事例を参考に研究していく。</p> <p>また、市内のスポーツ施設につきましては、そういった状況にあることは認識している。</p>
<p><b>【再質問】</b></p> <p>これから新しいプールを造るのではなく、今あるプールをどう有効活用していくかであって、ガイドラインでも積極的に開放するようにと明記している。ガイドラインを理解されているのか。</p>	<p><b>【教育部長】</b></p> <p>学校体育施設の有効活用に関する手引きの目的には、誰もが日常的にスポーツに参加することができる機会の確保、スポーツを通じた健康寿命の振興といったものについて、学校体育施設について官民連携等を図り活用されたいといった視点が大事であるとされている。学校体育施設は、社会体育として既に体育館・グラウンドなどが十分活用されている。プールの活用については、授業、部活動、千曲坂城クラブで使用してい</p>

色々なスポーツがある中で、水泳についても、教育的な立場から、公平に練習するチャンスを設けるべきではないか。

先進事例で愛知県一宮市では、学校施設条例を改定している。本市の条例でも改正は可能と考えるが如何か。

**【中村眞一議員】**

●令和6年度千曲市スポーツ教室の開設につて、千曲市水泳協会が、おおとりプラザプールの空き時間を活用できないか。

**【再質問】**

空いている時間がないということをしているのか

水泳協会から申し込みがあれば、水泳教室を開催できるということか。

るが、空き時間を貸し出すことが可能かなど、民間活用について研究していく。

屋内プール開放につきましては、行政改革大綱特別対策プランに基づき、一般開放を終了した経緯があるが、一般開放が可能か、課題は多いが研究はしていく。

愛知県一宮市の事例は、学校プールの運営について指定管理制度を導入する際に条例改正した経過であるが、令和4年3月に学校開放プールについては、運営経費高額、利用者の減少、監視員の確保ができないということで、現在は廃止されている。

**【教育部長】**

令和5年度は議員もご承知のとおり、スポーツ協会へ委託している14教室に水泳教室は含まれていない。先ほど答弁したとおり、現在は埴生中学校の体育施設として、授業で利用するほか、部活動や千曲坂城クラブで使用されている。

千曲水泳協会にプールの空き時間を活用できないかのご提案ですが、水泳教室の実施について、(スポーツ振興課含め)市民プール開設期間での対応活用も考えられるのではないかなど、スポーツ協会と打合せする中で検討していく。

**【教育部長】**

空き時間での活用については、先ほど答弁したとおりである。

水泳教室については、スポーツ協会(水泳協会)に開催できるかどうか、市民プールの開設期間に開催できないか相談していく。

スポーツ教室の委託については、仕様書で教室の回数が5回以上20回以内としている。水泳教室については、市民プールを想定した場合には開設期間が短いため、回数の確保が難しいと感じている。埴生中学校屋内プールの場合は、授業・部活動・クラブが使用していな

<p><b>【柳澤眞由美議員】</b></p> <p>●治田小学校、桑原・稲荷山保育園の複合施設建設検討委員会立ち上げを。</p> <p>①保育施設・学校施設の建て替え計画を作成すべき。</p> <p>②検討委員会でアンケートを実施し、子どもや保護者の願いを受け止める計画を作成していくことが重要。</p> <p>③周辺の公共施設の統廃合も視野に入れる計画を。</p>	<p>い空き時間での対応となる。</p> <p><b>【教育部長】</b></p> <p>現在、桑原保育園では、耐震・中規模改修工事を施工しており、稲荷山保育園につきましては、令和6年度に同工事を実施する予定である。</p> <p>また、治田小学校につきましては、個別施設計画（令和6年度版）で、令和7年度に耐力度調査を予定として計画しているところであり、耐力度調査実施後、調査の点数により、その後の改修計画等について検討していく予定である。</p> <p>検討委員会を設置した場合は、アンケートや様々な方法で、子どもや保護者、地域住民の意見を取り入れながら計画を作成していく必要があると認識している。</p> <p>稲荷山児童センターは、治田小学校に隣接しており、放課後児童クラブを利用する児童が安心安全に移動することができている。なお、今年度LED化の実施設計をし、来年度工事を実施する予定である。</p> <p>また、稲荷山公民館は平成28年度に耐震化工事を行っており、その後もトイレの洋式化などの工事を行い、施設の長寿命化を図っているため当面の間建て替え予定はない。併せて、元八日町、中町の分館施設を兼ねているので、今後、稲荷山公民館の建て替えが必要な時期を迎え、公共施設の周辺施設との統廃合を含めた計画があれば、分館施設として使用している元八日町、中町の方の意見を伺いながら進めていきたいと考えている。</p> <p>議員ご提案の複合施設建設検討委員会の立ち上げにつきましては、令和7年度に実施を予定している治田小学校の耐力度調査の結果、または、児童・園児数の推移により、学校施設・保育施設等の統廃合や複合化については、学校再編を含め、今後の検討課題とさせていただきます。</p>
--	---

**【聖澤多貴雄議員】**

●高校再編、懇話会について  
第一回懇話会が開かれるまでに  
重ねておくプロセスについて

**【再質問】**

第1回目の懇話会の後、こちらの  
議論を深めていくということ  
よいか。

現在の再編計画では、新校には普  
通科は存在しない。普通科志望の  
義務教育を卒業する中学3年生は  
屋代高校以外では、千曲市外の高  
校へ行かなければならない。屋代  
南高校が担ってきた部分をどう  
していくか見識を伺う。

普通科について述べさせていた  
だいた。屋代南高校のライフデザ  
イン科は普通科と共にあること  
で教養科としての位置づけをさ  
れてきた。

**【教育長】**

県立高校の再編・整備計画の第三次案の決定を受け、  
長野県教育委員会では、旧第4通学区新校再編にかか  
る「新校再編実施計画懇話会」の初回開催に向け、日  
程調整等図られておるかと思存しますが、現時点で、県  
教委からは懇話会開催について連絡はない。

今後、県教委により設置される懇話会では、「(仮称)長  
野千曲総合技術新校」の学校像、活用する校地や校舎、  
設置学科について意見を交わし議論を深めていくこと  
になる。

県内他地域の再編実施にかかる懇話会開催状況をみま  
すと、初回には、再編・整備計画の検討経過、協議内  
容の確認のほか、スケジュール、専門部会の設置、「実  
施方針」など協議されるようである。

県教委が示す今後の進め方、方向性など懇話会初回の  
内容を踏まえ、後日、『発展させる会』において協議、  
幅広くご議論をいただき、会における皆様の声をお聞  
きしながら、懇話会での実質的な協議に臨んでいく。

**【教育長】**

そのとおり。

先ほど答弁したとおり、懇話会の中で学びの内容につ  
いて、しっかりと議論しながら対応していく。

千曲市内での県立高校2校の設置とあらゆる可能性を  
排することなくといったところを合わせて議論し、要  
求していく。

**【市長】**

「(仮称)長野千曲総合技術新校」の学校像、活用する  
校地や校舎、設置学科について意見を交わしていくの  
が、これから設置される懇話会だと認識している。  
普通科に関しては、県教委の第三次計画で触れられて  
いることなので、それを蒸し返すような議論はしづら

普通科の再編計画は文科省が進めている改革でもある。一つの市の中に学べる普通科が無いに等しい現実をどう考えるかなどを突破口にするもよし、現在の県教委の再編計画でも解決できていない課題もたくさんある。強い意志を持って立ち向かっていっていただきたいと思うが、市長の見解を伺う。

**【川嶋敬信議員】**

●屋代南高校の存続について、この一年間の対応は。

いところがあるが、あらゆる可能性を排することなく議論していく。

また、今月、ライフデザイン科の発表会も予定されているので、生徒たちの姿を目に焼き付けて臨んでいきたい。

**【教育部長】**

昨年、令和4年7月から8月にかけて県教育委員会主催により開かれた県立高校の再編・整備計画住民説明会では、市長が出席をし、県教委事務局に3次案についての疑問点、屋代南高校の存続や校地の活用などの要望など具体的な指摘を申しあげた。

同じく9月、市民団体の代表者、千曲商工会議所会頭、戸倉上山田商工会長、市議会議長も参加された意見交換会では、市長、教育長のほか、企画・まちづくり担当部局の職員も出席のうえ、御意見・御要望等をお聞かせいただいた。

また、長野県議会に対して、屋代南高校を発展させる会から屋代南高校の存続についての請願書を提出、併せて、県教委内堀教育長に対し、同趣旨の要望書を市長より提出した。

本年度は、懇話会に向けて県の動向を注視しているところである。

以上のように、市議会をはじめ各種団体や新校に寄せられる市民の皆さまの様々な思いを重ね併せ、県議会、県教委へ直接、陳情書などにより声を届けたことにより、最終整備計画に、『地域の様々な意見があることから、懇話会での意見交換を踏まえ魅力ある学校像を創り上げていく』との文言が記載されたものと承知している。先般、市議会から「高校改革再編整備計画【三次】に関する要請書」により、今後、県主催の懇話会において、市議会とともに粘り強く進めていくよう要請をいただいておりますとおり、市議会とも強く連携

をもって臨んでいきたい。

また、市民への情報提供、お知らせとしては、開催内容など詳細が判明しましたら、速やかにお伝えするとともに、会議内容等についても市HPや市報等により市民の皆さまに確認いただけるよう対応していく。

### 【再質問】

市長部局からまちづくりの観点で、懇話会に向けての方針をお聞かせいただきたい。

昨年の県知事選のときに、阿部知事が市内で街頭演説した際、屋代南高校の問題について、この市の地域の声が聞こえてこない。皆さんどんどん声を出してほしいとの演説があった。色々な立場と色々な意見があると思うが、懇話会に向けての資料準備はされているのか。

現状がほとんど市民に伝わっていない。第三次計画と先ほどの市長の熱い想いを市報に載せることも含めて、今後の対応を考えていただきたい。

### 【市長】

まちづくりにおける重要性は十分に認識している。

まだ、懇話会の日程は明らかにされていないが、委員に選ばれた場合には、まちづくりの観点の発言をしていく。

まずは、第1回の懇話会の内容を踏まえて、今後の取組について議会にも相談する中で対応を考えていく。

とにかく千曲市内に県立高校2校を絶対残すという想いは全く変わっていない。

懇話会に向けての資料づくりはしていない。

昨年の知事選の際に知事から地域の皆さんもっと声を上げてほしいということを受けて、その後、市民の方から色々なご意見をいただきことを踏まえ、こちらとしても、声を上げた代表者の方を交えて意見交換会を複数回させていただいた。

懇話会は、回を重ねるごとに具体的な話が進んで行く。

まずは、1回目の懇話会の開催を受けたうえで、その後しっかりと対策していきたい。

千曲市内に県立高校2校を残すという中で、普通科を残すことは無理なので、それ以外のあらゆる可能性を排することなくということで、総合技術新校の枠内で、別の形がないかなど議論をしていく。県教委の三次計画にある基本的な再編基準をいじるといった議論にはならないので、そうでない形で対策をしっかりと考えていきたい。

第1回の懇話会の日程等が決まりましたら市報でお知らせをしまして、その中で私の想いも掲載していきたい。

高校再編については、これまでの議会でもしきりに質問のテーマとなっていました。市としてもアピールし

ていますので、まだまだ浸透していないということであれば、議会と共にこの問題を盛り上げていきたい。わたくしは、市民の皆様の付託を受けて市長の職をやらせていただいておりますので、市に不利益になるような想いでやることは絶対にありませんので、なんとかしてでもよい形で残していきたいと思っていますので、そこは市民の皆様にしっかりとお伝えていきたい。

**【宮下繁明議員】**

●おおとりプラザプールを市民に開放する考えは。

**【教育部長】**

中村眞一議員の質問でも答弁しましたが、埴生中学校の屋内プールにつきましては、平成 20 年度から灯油高騰により、冬季間の一般開放を中止し、平成 26 年 10 月からは、行政改革大綱特別対策プランに基づき、一般開放を終了している。

現在、当該学校の生徒が使用する体育施設と位置付け、4 月中旬より 10 月下旬までの間において、体育の授業で利用するほかに、放課後は、坂城中学校・屋代付属中学校を含めた 6 中学校が合同部活動場として利用しており、本年 4 月から部活動の地域移行として千曲坂城クラブでも休日平日ともに利用している状況である。

昨日の中村眞一議員のご質問で答弁したとおり、学校授業、部活動等以外での運営時間、光熱水費等のコスト面を考慮のうえ、管理運営の民間委託の先進事例について研究していく。

**【再質問】**

いつまでに結論を出すのか。

**【教育部長】**

昨日答弁しましたとおり、水泳協会と水泳教室開催に向けて、話し合いの場を持ちたい。

一般開放がどういった場面、どの時間帯が可能かといくことを、スポーツ振興課・教育総務課で検討する中で、庁内で検討を進めて行く。

新年度から実施できないか。

可能かどうか、これからの議論研究の中で進めて行くことになるので、現時点では新年度からの実施は難しいと考えている。

質問者・質問の要旨	答弁の要旨と今後の課題、具体的対応策
<p><b>【宮下繁明議員】</b></p> <p>●第9回千曲川ハーフマラソンに参加して</p> <p>①今回の総費用と内容、また成果と反省点はどのように考えているか。</p>	<p><b>【教育部長】</b></p> <p>運営経費等、現在、精算段階であり大会運営全般に係る概算として、歳入は、参加者からの参加費が941万円、企業からの協賛金が200万円、市の負担金が1,220万円で、うち800万円をスポーツ振興くじ助成金で補填し総額2,361万円。</p> <p>歳出は、新聞広告費、プログラム作成費、交通規制チラシ作成費、テレビCM製作費等の広報費が385万円、参加賞Tシャツ、日帰り温泉無料入浴券、入賞者景品などに係る経費で460万円、交通規制の警備委託、仮設トイレ、交通規制看板の設置、シャトルバス等の会場運営費が1,066万円、計測業務委託、給水所のドリンク、傷害保険料、医師、看護師謝礼等競技運営費が450万円で総額2,361万円である。</p> <p>成果と反省点は、対外的には千曲市の魅力発信、交流人口増加、市民の健康増進などの他に運営面では運営ボランティア、戸倉上山田中学校の陸上部の皆さんなど総勢428人の方に参加いただき、まさにスポーツを「する」「みる」「ささえる」といった多様な形でのスポーツへの参画が図られたのではないかと考えている。</p> <p>反省点は、今回初めて戸倉体育館がスタート、ゴール会場だったこともあり、交通規制の面で渋滞が発生した箇所や時間帯があり、地域住民の方や通過交通の皆様にご迷惑をおかけする場面があった。</p> <p>次年度は、交通規制の周知の強化や警備会社との綿密な打合せにより渋滞が予想される箇所への対応など地域住民の皆様の生活に極力影響を及ぼすことがないよう対策を検討していく。</p>

②参加者数の推移はどのようになっているか。参加者の声を聴いているか。

平成 27 年第 1 回大会が 2,000 人の募集定員に対し 2,049 人の申し込み 1,826 人が出走。平成 28 年第 2 回大会が 2,500 人の募集定員に対し 2,491 人の申し込みで 2,240 人が出走。平成 29 年第 3 回大会が 2,500 人の募集定員に対し 1,537 人の申し込みで 1,348 人が出走。平成 30 年第 4 回大会が 2,000 人の募集定員に対し 1,552 人の申し込みで 1,383 人が出走。第 5 回大会は台風第 19 号災害、第 6 回大会、第 7 回大会は新型コロナウイルス感染拡大のため中止し、令和 4 年第 8 回大会が 1,500 人の募集定員に対し 1,485 人の申し込みで 1,283 人が出走。今年度の第 9 回大会はハーフマラソンの部では、1,500 人の募集定員に対し 1,538 名の申し込みで 1,352 人が出走し、新設した 2 km のファミリーマラソンの部では、100 組募集に対し、58 組、126 人の申し込みで、48 組 104 人が出走となっている。

「参加者の声を聴いているか」については参加者の生の声を聴き、改善点など次年度の大会に活かす為、スマートフォンから QR コードを読み取り回答していただくアンケート用紙を参加者の手荷物返却時に配布した。

内容は宿泊の有無、コース、開催時期、サービス、来年度の参加についてなど全 11 の回答項目となっており、現時点で約 300 人の方から回答をいただいております。改めて集約し参考にしていく。

また、大会後の口コミやレポート・評価などでは「スタート、ゴール、駐車場がまとまっていたよかった」「平坦で走りやすかった」「沿道の太鼓応援や声援でがんばれた」「ゴール後のおにぎり、豚汁はありがたかった」「寒さを心配していた」などの意見が投稿されており、アンケート結果や評価などを参考にし、次年度の大会に活かしていきたいと考

③来年度以降についてはどのように考えているか。

えている。

県内のマラソン大会の開催状況や、先ほど答弁した参加者へのアンケート結果などを基に検討、検証したのち千曲川ハーフマラソン実行委員会において開催時期やコースなどを決定していく。

また、開催時期は走り収めとしても参加していただいていることや平坦なコースで走りやすいといった声を参考に、10 kmマラソンを新設するなど参加し易い大会となるよう検討していく。

④スポーツによる健康増進を市政の目標にする考えはないか。

「健康づくり」、「子供たちの健全育成」、「活気あるまちづくり」を目指し、平成 24 年 6 月に「スポーツ・健康都市宣言」をしており、市民の皆さんの健康増進がこれまで以上に図れるよう、第三次千曲市総合計画に定めた基本目標である「千曲っ子が元気に育つ、生涯学びのまち」を目指し、スポーツ振興施策を実践していく。

また、現在策定中の教育振興基本計画においても取り組んでおり教育全般でスポーツ施策に取り組んでいく。